

事務事業マネジメントシート(令和 2年度実績と令和 3年度計画)

令和 3年12月21日更新

事務事業名		二次救急医療圏病院群輪番制運営事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政 策	2	福祉の健康				所属部	健康福祉部	課長名	坂井晴代
	施 策	5	健康づくりの推進				所属課	健康づくり推進課	担当者名	槌田恵
	施策の柱	21	地域医療体制の充実				所属班	健康推進班	(内線)	1637
予算科目		会計一般	款 4	項 1	目 1	事業連番 10382	根拠法令			
終了、開始年度		☐ 2年度で終了 ☐ 2年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)			

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	菊池圏域2市2町で協定書を作成し、菊池保健所管内7医療機関(2次医療機関)に依頼し、休日・夜間の救急受診のできる医療機関を確保している。菊池市、合志市、菊陽・大津の3圏域に分けて当番日数を割り当てている。平成16年度まで熊本県の事業として実施されていたが、平成17年度から各自自治体で実施することとなった。
【業務の流れ】	菊池地域保健医療協議会事務局が計画作成を行なう。 協定書の起案、協定書の取り交わし、支払い事務を行なう。
【主な予算費目】	負担金
【意見や要望】	特になし

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
①手段(主な活動) 2年度実績(2年度に行った主な活動)(DO)		3年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
菊池圏域2市2町が協定書を交わし、菊池管内7医療機関に依頼し夜間当番医を決めて実施。令和2年度は、1,311日を7医療機関で分担し、市民の利用は374人であった。事務局市町(大津町)が、菊池市・合志市・菊陽町から負担金を徴収し、取りまとめたうえ、医療機関に支払いを行った。		令和3年度の事務局は菊池市。菊池市へ負担金の支払いを行い、菊池市から医療機関へ支払いを行う。事業内容は今年度同様、実施予定。	
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
⇒ア 医療機関数	施設		
⇒イ			
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)	
市民	人	⇒ア 人口	人
		⇒イ	
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)	
夜間でも受診できる(救急医療機関)	人	⇒ア 受診者数	人
		⇒イ	
*③成果指標設定の理由と3年度目標値設定の根拠			総トータルコスト
夜間・休日の救急受診体制が整うことで、住民が安心して受診できるため、受診者数を指標としている。消防署の救急搬送による受診のため、前年度の実績を参考に設定している。			全体計画
			～ 年度
			0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	30年度 実績(決算)	31年度 実績(決算)	2年度 目標(当初予算)	2年度 実績(決算)	3年度 目標(当初予算)	4年度 予定	5年度 見込	6年度 見込
① 活動指標	ア 施設		8	7	8	8	8	8	8	8
	イ									
② 対象指標	ア 人		62,343	62,707	62,925	63,189	63,600	64,614	65,500	66,391
	イ									
③ 成果指標	ア 人		284	496	500	374	500	500	500	500
	イ									
投 入 費 用	財 源	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円	6,923						
		繰入金	千円							
	一 般 財 源		千円	3,296	3,326	3,288	3,288	3,373	3,373	3,373
		(A) 事業費計	千円	10,219	3,326	3,288	3,288	3,373	3,373	3,373
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
			千円							
人 件 費	正 規 職 員 従 事 人 数		人	3	2	2	2	2	2	2
		延べ業務時間	時間	1,200	90	120	6	120	120	120
	(B) 人件費計	千円	4,730	356	478	23	478	478	478	478
トータルコスト(A)+(B)			千円	14,949	3,682	3,766	3,311	3,766	3,851	3,851

事務事業名	二次救急医療圏病院群輪番制運営事業	所属部	健康福祉部	所属課	健康づくり推進課
-------	-------------------	-----	-------	-----	----------

2 評価の部（CHECK）

*原則は 2 年度の後評価、ただし複数年度事業は 2 年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	① 2 年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】 夜間、休日の救急医療体制が整備され市民が安心して受診ができているため目標は達成できた。
	② 3 年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】 受診しやすい体制が整い、例年並みの受診者数は見込める。
有効性評価	③ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 夜間休日の救急対応ができる医療機関が今年度から 1 医療機関増えたため向上の余地がある。
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 他に類似した事業はないので統廃合等はできない。
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 実績に併せ最小限の負担金となっているのでこれ以上の削減余地はない。
	⑥ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 事務に係る時間数は最小限でおこなっておりこれ以上の削減余地はない。
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 急を要する医療が必要な市民を対象としているので公平であり、行政がしなくてはいけない事業である。
役割分担評価	⑧ 行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 委託医療機関の当番日数に応じた補助を市の財源からしているため。

3 評価結果の総括（CHECK）

菊陽・大津圏域の 1 医療機関から平成 31 年度以降、辞退の申し出があったが、今年度はこの圏域の協力医療機関として、1 医療機関増えたため体制は維持できている。身近な医療機関への搬送が可能となっている。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）